

# 七大学フランス遠征感想

東京大学 〇年 山中康平

## 1. 前書き

この度、6月4日から5日まで行われたフランス遠征に、僕と4年生の椿先輩が参加して参りましたので、そのご報告をさせていただきます。

以下簡単に各日程について振り返りたいと思います。

## 2. 内容

### ● 初日

午前10時に成田空港に集合しました。その後、昼食をとりつつ、団結式を行いました。そして、午後3時前、成田空港を発ち、約12時間のフライトを経て、現地時間19時半頃に、パリに到着しました。その後、宿舎まで移動し、就寝しました。就寝するまで、24時間ずっと起きていたにも関わらず、次の日には朝から試合をするという時には絶望を感じましたが、少しでも市民時間を確保するため、同室の椿さんとも、そんな愚痴を言う間もなく就寝しました。

### ● 2,3日目

2日目はまず、アミアンで試合をしました。この日は、大まかに階級ごとに分かれて、各試合場で3試合程度、練習試合をし、その後、5本ほど乱取りをしました。それから、クレイユに移動し、午後は、クレイユの道場で1時間程度乱取りをし、現地にいらっしやる重岡先生の講義を受けました。3日目は、同じクレイユの道場で試合をしました。今回は15人制の七大学ルールの試合でした。僕自身は、後ろの方だったので、試合に出る機会はありませんでした。その後、昼食をとり、午後はバスでパリに移動し、夕食のち、自由行動となりました。この時点で、多くの選手がまだ柔道着を1回も洗濯できていないという、非常にお粗末な状況でありましたが、ようやく、コインランドリーを見つけ、選択することができました。また、フランスには自動販売機があまりなく、スーパーにもありつかなかったので、かなり、水分が不足していましたが、パリでは、以前旅行経験が合う椿さんの助けを借り、スーパーで水を手に入れました。このままだと、本当に干からびるところでした。

### ● 4日目

4日目は、遠征中唯一のオフであり、偶然、パリを夫婦で旅行されていた藤綱先輩にパリ市内観光とヴェルサイユ宮殿観光に連れて行っていただきました。藤綱先輩夫妻はパリにいらっしやるのは、数度目と伺ったのですが、快くパリ観光に連れて行っていただき、そのうえ、昼食、夕食ともにご馳走になりました。僕自身は、ヴェルサイユ宮殿の中を回れたことがとても印象に残っており、「あれが、ルイ14世の…、グヘヘヘ」と興奮していました。自然なことですが、この日が一番楽しかったです。この場をお借りして、藤綱先輩御夫妻にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

● 5日目

5日目はパリで練習試合、及び、練習をしました。この試合の相手は国内のジュニアでは5、6位のチームということでもちやくちや強かったです。試合は10人制の七大学ルールでしたが、僕も、七大学ルールに救われて、なんとか引き分けました。チーム全体としては2人残りで敗れました。その後、練習をしました。国際ルールでの乱取りで、多くの選手と交流できたことはとても嬉しかったですし、いい経験になりました。また、この日は、著名な栗津先生とオリンピック2連覇を達成された谷本歩美さんに試合を観戦していただきました。栗津先生には写真をお願いできたのですが、谷本さんには、恥ずかしくていきませんでした。今となっては、心残りです。その後夕食をとり、ホテルで就寝しました。ちなみに、椿さんは、かつて東大に練習に来ており、今回の試合にも出場していたブノアさんと、もう一人の友人とトマさんと夕食を共にしていたため、別行動でした。このような柔道の縁というものは素晴らしいなと思いました。

● 6日目

6日目は、早朝、TGVで、南へと移動し、サルートの市長を訪問し、共に昼食をとりました。観光の後、ペリグーへと移動し、大きな体育館で練習をしました。この時は、大人から子供まで、様々な世代の柔道家と練習しました。多くの柔道家が楽しそうに練習をしており、フランス柔道の発展を垣間見ることができたと思います。その後、ホテルに移動し、就寝しました。このホテルが、中世の古城を改装したものらしく、周囲には見事に牛しきありませんでした。

● 7日目

7日目は、古城の牛に別れを告げ、バスでボルドーまで移動し、昼食の後に練習、夕方、試合をしました。試合の前に日本食レストランに行って、軽食をしたのですが、その時、順番に送迎してもらえないはずが、後半の組の迎えの車がいつまでも来ませんでした。「stay here」と言われたので、待っていたら、試合開始時刻になっても、音沙汰がないので、仕方なく試合会場まで歩くことにしたのですが、半分まで行くと、子供に「hurry

「5日」と言われ、会場まで走らされました。そして、そのまま、試合をしました。今となってはいい思い出です。試合はものすごく大規模なもので、会場の至る所に、ポスターが貼ってありました。また、観客も大勢いました。しかし、相手側との意思疎通がうまくできておらず、13人对15人」になるなど、終始、混乱が見られました。それでも、遠征中で一番七大学ルールらしい試合になったと思います。その後、例の日本食レストランに行き、夕食をとって、ホテルで就寝しました。ホテルはとてもいいところでした。

● 8日目

前の日に行った日本食レストランの影響で食中毒になりました。僕だけでなく、3人くらい当たっていました。他の人はダックスというところに行ったららしいです。

● 9日目

体調が回復したので、観光についていきました。同室の椿さんと京都大の前川さんは、遅れてきた食中毒で倒れていました。また、風邪を引いた方や、そもそも、疲れているので行きたくないという方が多数おり、この時点で観光に行った選手は5人、一方でOBは7人全員参加という奇妙な状況が発生しました。今となってはいい思い出です。この時は、サンテミリオンを観光しました。その後、練習をしたのですが、僕は、体調がすぐれなかったので、見学していました。場所は、7日目の会場で相手も、先日の試合に出場していた選手がたくさんいました。僕ももう1度練習したかったです。とても残念でした。その後、先日、食中毒をもらった例のレストランで夕食をとりましたが、今度は蕁麻疹が出ました。今となってはいい思い出です。

● 10日目

10日目は、午前中に、ミッシェル・ブルース教授という柔道の研究者の方に、フランス柔道発展の秘密を伺いました。部員増強が必要な我々にとっては、目から鱗が落ちるほどためになる話をいただきました。その後、教授の講義の中でも名前の拳がった道上先生の開かれた道場で練習したそうです。ちなみに、この時は、僕は体調不良で、ホテルに先に戻らせてもらいました。この日が最後の練習だったので、とても残念でした。その後、夕食をとって、ホテルで就寝しました。

● 11、12日目

11日目は、TGVでボルドーからパリに移動する移動日でした。パリのド・ゴール空港で土産を買い、現地時間午後9時にパリを発ち、日本時間で翌日の午後3時半に、羽田空港に到着しました。その後、1時間程度、階段式を行い、大学ごとに解散しました。

### 3. 終わりに

以上が簡単な日程とその内容です。

まず、僕は海外に行くのは初めてで、それ自体嬉しいことなのですが、行き先がフランスであることにも大変喜びを感じました。なぜかと申しますと、僕は大学でフランス語を選択するなど、フランスに対して、強い憧れを持っていましたからです。今回は柔道の遠征ということで、自分の興味のある場所全てを回ることができませんでしたが、それでも、実際のフランスの空気に触れることができ、とても幸せでした。

さて、本題の柔道についてですが、本当に各地で柔道をすることができました。北はアミアンから、南はボルドーまで、各地の道場に伺っては、一緒に練習や試合をしました。海外で柔道をする機会など滅多にないので、とても良い経験になりました。フランスの選手はパワーもさることながら、技術もしっかりしていて、多くのものを学んでくることができました。

畳の外では、行く先々で、熱烈的な歓迎をしていただいたことがとても印象に残っています。僕も各地で多くの柔道関係者と会話を楽しみました。フランスの道場には、幼い子供たちからお年寄りまで、様々な世代の方が柔道に携わっており、各世代の方々と話すことができたのはとてもうれしかったです。今回は英語での話が主だったのですが、次回はフランス語で会話できるようになっていきたいと思います。

また、柔道以外でも多くの刺激になる体験がありました。観光に連れて行っていただき、フランスの古い街並みや有名な建造物を見ることができたことはとても印象に残っています。海外旅行が初めてだった僕にとっては、海外のスーパーマーケットに行くことでさえも、刺激になる体験でした。フランスには自動販売機が少ないため、飲み物が不足してしまったことや現地の日本食のおかげで一日寝込む羽目になったことも、今では

簡単ではありませんが、これで、今回の遠征のご報告とさせていただきます。最後に、この遠征を実現させていただいた方々、及び、同遠征にご協力を寄せていただいた方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

(本遠征気はフランス遠征実行委員会に提出した感想文を一部改変したものです)